

2014年1月17日

関係各位

野村アセットマネジメント株式会社

野村アセットマネジメント、第8回「投資信託に対する意識調査」結果を発表

～投資信託保有率は17%に改善。投資意向率も上昇～

野村アセットマネジメント株式会社(CEO兼執行役会長兼社長:岩崎俊博)は、第8回「投資信託に対する意識調査(2013年版)」を公表した。この調査は、2005年1月に公表した「団塊世代/シニア世代の投資信託に対する意識調査」から毎年実施しているもので、投資家の意識の変化などを調査・分析している。なお今回は昨年10月中旬に実施した「NISAに関する意識調査」と同時に行っている。

主な調査結果は以下のとおりである。

投資信託保有率・投資意向率

投資信託の保有率(世帯ベース)は17%と前回(2012年調査)よりも3%ポイント改善。投資意向率は14%と4%ポイント程度改善している。

資産運用の目的

投資信託保有者の資産運用の目的は、低金利の中で資産の有効活用との回答が高いものの、老後の資金目的の回答が高まっており、今回の調査では最も高い回答となった。

投資信託に対するイメージ

「元本保証がない」「リスクが大きい」との認識が上位にあるものの、前回調査から回答率は低下し、「安定している」との回答が増えている。また「商品内容が分かりにくい」との回答も増加している。

投資家の特性

バランス型投資信託に対する期待リターンと許容損失率をみると、前回調査と変わらず、慎重な姿勢にある。投資環境は、株高・円安へと大きく変化したが、投資家の特性は慎重なままであり、低リスク商品の重要性に変わりはないものと見られる。

分配金に対する意識

投資信託の分配金に対して、65%が必要としているものの、税率が20%に引き上げられた場合、64%が必要ないとの回答となった。

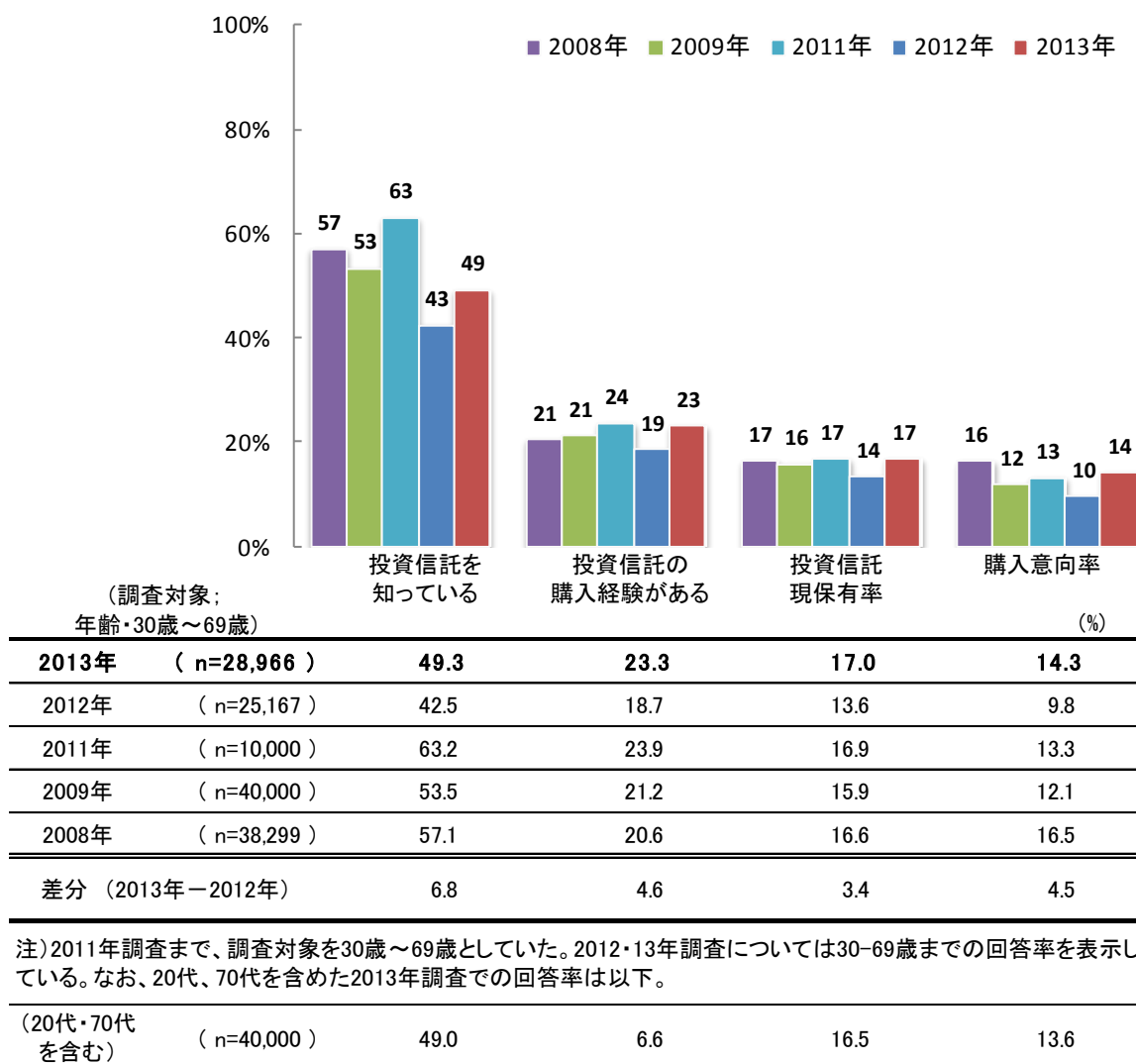
【調査結果】

投資信託保有率・投資意向率

投資信託の保有率(世帯ベース)は17%と前回(2012年調査)よりも3%ポイント改善。投資意向率は14%と4%ポイント程度改善している。

Q:現在保有している金融商品、現在保有していないが、これまでに保有または購入経験がある金融商品、現在保有していないが、興味・関心を持っている金融商品、今後(も)、保有または購入したい金融商品について、すべてお聞かせください。(n=40,000)

【投資信託に対する認知・興味関心・保有経験・保有率・意向率の推移】

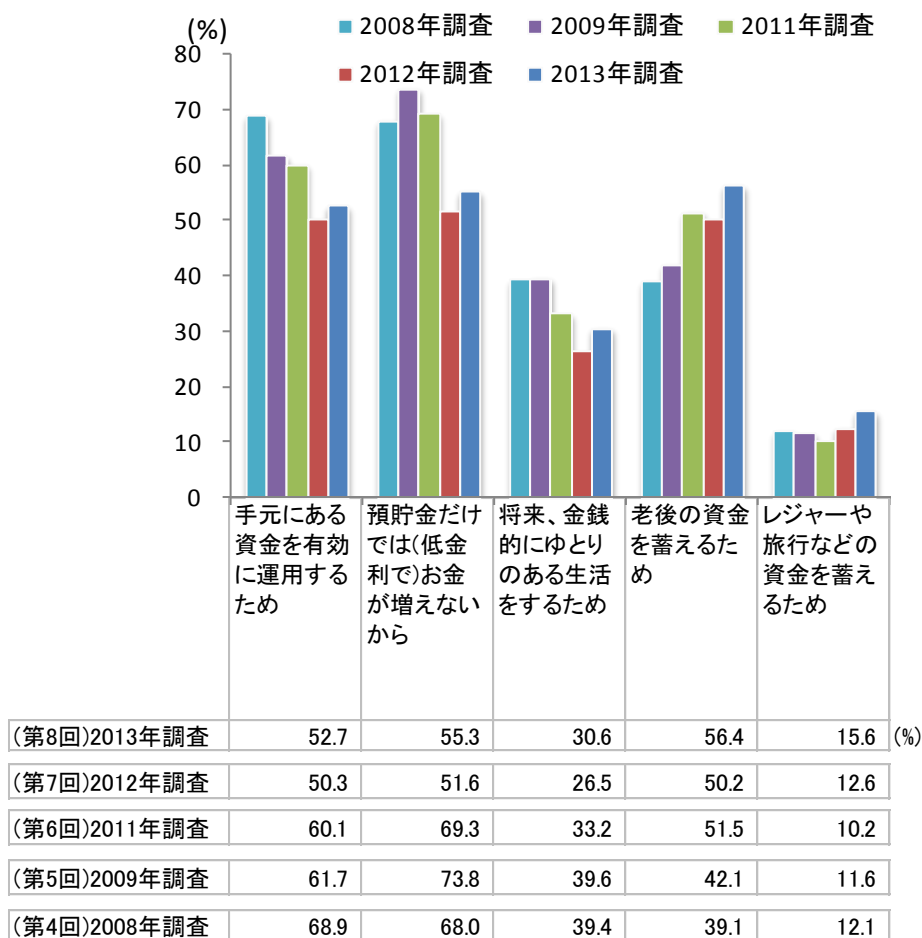


資産運用の目的

投資信託保有者の資産運用の目的は、低金利の中で資産の有効活用との回答が高いものの、老後の資金目的の回答が高まっており、今回の調査では最も高い回答となった。

Q:あなたのお宅では有価証券投資(預金は除く)を行なっていますか?行なっている方は、あなたのお宅で有価証券投資をしている目的について、あてはまるものを5つまでお答えください。
(n=3,616)

【投資信託保有者の資産運用の目的】



注:2008年調査における上位5項目を順に表示している。なお選択肢は14項目ある。

投資信託に対するイメージ

「元本保証がない」「リスクが大きい」との認識が上位にあるものの、前回調査(2012年7月)から回答率は低下し、「安定している」との回答が増えている。また「商品内容が分かりにくい」との回答も増加している。

Q:以下の金融商品についてあなたが感じるイメージとしてあてはまるものをそれぞれ5つまでお選びください。(n=3,616)

【投資信託に対するイメージ】

	元本保証がない	リスクが大きい	商品内容が分かりにくい	分散投資に役立つ	長期保有する	投資初心者向け	安定している	手軽に購入できる	コストがかかる	利回りがよい		
第8回調査 (2013年10月)	32.7	24.3	17.8	17.1	15.0	13.9	13.8	12.7	12.4	10.0	(%)	
第7回調査 (2012年7月)	元本保証がない (新設)	リスクが大きい	分散投資に役立つ	長期保有する	手軽に購入できる	投資初心者向け (新設)	利回りがよい	コストがかかる	商品内容が分かりにくい (新設)	知識がなくても購入できる	9.9	(%)
第6回調査 (2011年5月)	分散投資に役立つ	リスクが大きい	長期保有する	利回りがよい	コストがかかる (新設)	手軽に購入できる	老後の生活設計に使う	大きな資金が必要	知識がなくても購入できる	購入後の状況が分かりやすい	9.9	(%)
第5回調査 (2009年10月)	分散投資に役立つ	リスクが大きい	長期保有する	利回りがよい	少額でも購入できる	手軽に購入できる	老後の生活設計に使う	リスクが分かりやすい	自分にとって身近	知識がなくても購入できる	12.2	(%)
第4回調査 (2008年2月)	分散投資に役立つ	リスクが大きい	長期保有する	利回りがよい	手軽に購入できる	少額でも購入できる	老後の生活設計に使う	自分にとって身近	リスクが分かりやすい	購入後の状況が分かりやすい	8.7	(%)

(降順でソート)

注:上位10項目について表示している。なお選択肢は16項目ある。

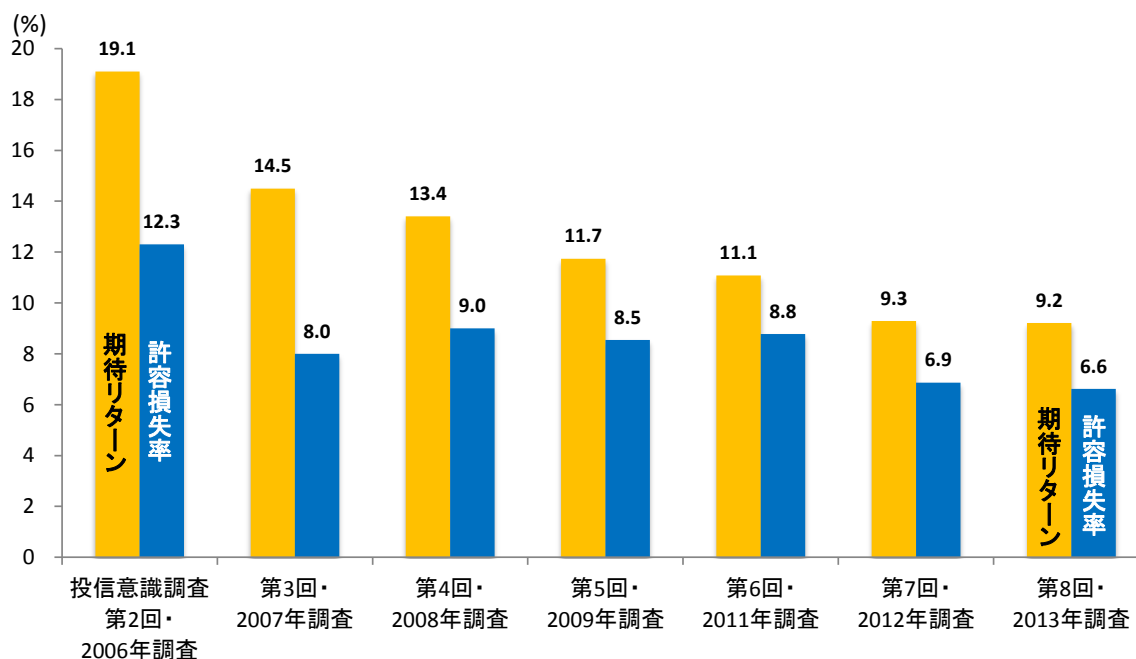
投資家の特性

バランス型投資信託に対する期待リターンと許容損失率をみると、前回調査と変わらず、慎重な姿勢にある。投資環境は、株高・円安へと大きく変化したが、投資家の特性は慎重なままであり、低リスク商品の重要性に変わりはないものと見られる。

Q: 投資信託を購入してから手放すまでに、どれくらいのリターン(利益)を期待して投資をしますか。もしくは投資しましたか。投資信託を保有していない方は、もし、投資信託の購入を検討するとしたら、どれくらいの年率リターン(利益)を期待して投資をしますか。(n=3,616)

Q: 投資信託の購入を検討する際、「一時的な損失」であれば、どれくらいの損失を許容できますか。もしくはどのくらいの損失まで許容できましたか。投資信託を保有していない方は、もし、投資信託の購入を検討するとしたら、一時的な損失であれば、どれくらいの損失を許容できますか。(n=3,616)

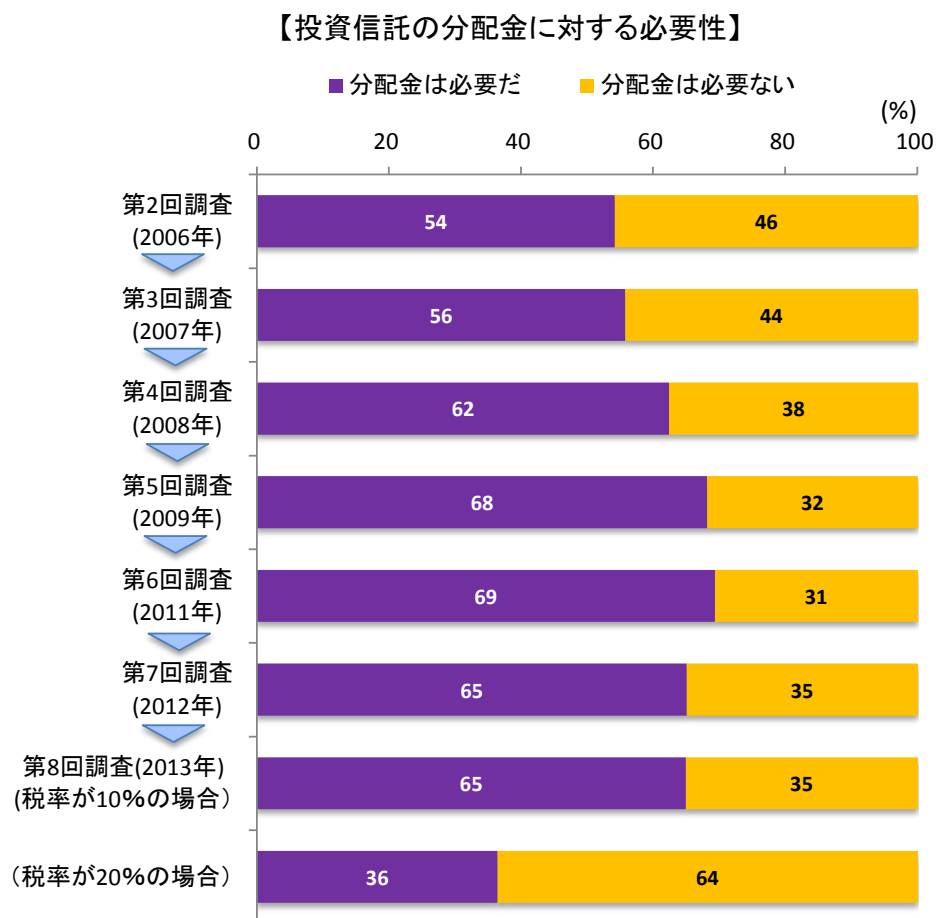
【バランス型投資信託に対する期待リターンと許容損失率の推移】



分配金に対する意識

投資信託の分配金に対して、65%が必要としているものの、税率が20%に引き上げられた場合、64%が必要ないと回答となった。

Q:分配金は必要でしょうか。(n=3661)



【調査概要】

■調査目的

投資信託の利用状況を事前調査で探り、その上で投資信託の保有者、過去保有者および現在非保有であるが保有意向がある方を対象に本調査を実施し、投資信託を含む金融商品に対する意識（保有実態、今後の保有意向、投資信託の満足度など）を把握すること。

■調査対象・サンプル数

（事前調査）40,000 サンプル：20歳以上の男女（調査会社マクロミルに登録しているモニター）から4万サンプルを対象に調査を実施。投資信託に対する投資意向、金融資産額や投資信託を含む金融資産の保有状況などを調査。なおサンプルについて、平成22年度国勢調査の性別年代別構成比に合わせ、ウエイトバックというサンプル数補正をおこなった上で集計処理を行っている。

（本調査）3,616 サンプル：投資信託の「現保有者」「現在非保有であるが保有意向（興味関心層）」「非保有であり意向もない者（無関心層）」を性年代別に均等に抽出し、事前調査でみられた出現率を参考に補正し（ウエイトバック）、3,616サンプルを集計。

20代			30代			40代			50代		
男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計
2,844	2,753	5,597	3,802	3,694	7,496	3,511	3,457	6,968	3,393	3,435	6,828
60代			70歳以上			合計					
男性	女性	男女計	男性	女性	男女計	男性	女性	男女計			
3,718	3,956	7,674	2,446	2,991	5,437	19,714	20,286	40,000			

■調査地域

全国（インターネット調査）

■調査時期

2013年10月17日（水）～11月5日（火）

■調査実施機関

株式会社マクロミル

以上